5月 学校だより

渡子小学校

平成２１年４月２８日

春のおぼろ月

学校の玄関横の掲示板に新入生の名前と一緒に，「**４月＝卯月**」と貼り出していた時の話です。和風月名【卯月】の由来を「初夏の花，卯の花が咲く季節であることから・・」と書いているのを見た高学年の女子が，「卯の花って？」と聞くので，♪卯の花の匂う垣根に・・♪という歌を引き合いに出しながら話しましたが，ぴんとこないようでした。何でも実物を見ないと言葉だけでは説明できないものだと思いました。

３月中旬に暖かい時があり，桜のつぼみが膨らみかけたので，入学式には葉桜になるのではないかと心配していましたが，丁度入学式には桜も満開となり１週間よいお天気で，花見をしながらの給食もできました。しかし，次の週には，風が吹いて見事な「桜ふぶき」となり，それから雨が降って花の代わりに緑豊かな葉が出てきました。そんな様子を，地域の方はよく見ておられ，「今年は花が長く見られてよかったですね。」「花が散るとすぐに葉が出てきて景色が一変しますね。」という声をかけてくださいました。その言葉に，花を愛でる心，自然をいとおしむ心を感じ，こちらまで心豊かな気持ちになりました。

これからは，音戸の瀬戸の「平戸つつじ」に目が奪われそうです。

さて，今の時期「花曇り」「春雨」と言われるように，空気も湿りをおびてもうろうと霞んで見えます。この独特の空気感は「朧」という名で呼ばれています。

照りもせず　曇りもはてぬ　春の夜の　朧月夜に　しくものぞなき　―大江千里―

（明るく照るわけでもなく，曇りきってしまうわけでもない。ぼんやりと浮かぶ春の夜の月の美しさよ。）

秋の澄んだ空に浮かぶ名月もよいですが，おぼろに霞む春の月もそれぞれお互いにない魅力があります。春の夕暮れの月を歌った季節感あふれる唱歌「おぼろ月夜」を口ずさみながら情景を思いうかべてみたいと思います。この曲は６年の音楽の教科書にのっています。

おぼろ月夜

詞　高野辰之　曲　岡野貞一

菜の花ばたけに入り日薄れ
見わたす山の端かすみ深し
春風そよ吹く空を見れば
夕月かかりて匂いあわし

里わの火影も森の色も
田中の小道をたどる人も
かわずのなく音も鐘の音も
さながらかすめるおぼろ月夜

唱歌とは，戦前の小学校の音楽で教えた歌のことで，多くが戦後の教科書にも引き継がれました。

昔風の言い回しも多く，あまり意味もわからずに歌っていた人も多いかもしれません。けれど大人になってもう一度，かつて習った唱歌の数々を歌ってみると，季節を歌う美しい言葉の数々に胸を打たれます。

今は少なくなった日本の美しい風土が歌の中に生きています。

（校長　長江留理子）